

永平寺町学校再編方針(案)



令和4年10月

永平寺町
永平寺町教育委員会

目 次

I 方針策定にあたって	1
1 方針策定の背景と経過	
2 学校教育の状況	
3 学校再編の必要性	
(1) 児童生徒数の今後の推計	
(2) 学校再編の必要性について	
(3) 学校再編にあたり配慮すべき事項	
II 基本的な考え方	3
1 再編の基準	
(1) 望ましい規模	
(2) 通学方法・距離から見た適正配置	
2 基本方針	
III 小・中学校の再編方針	5
1 小学校の児童数推計と再編方針	
(1) 松岡地区	
(2) 永平寺地区	
(3) 上志比地区	
2 中学校の生徒数推計と再編方針	
【資料】	
児童生徒数推移およびアンケート回答	

永平寺町学校再編方針（案）

I 方針策定にあたって

1 方針策定の背景と経過

全国的に人口減少や少子化が進行している中、永平寺町内の小中学校においても児童生徒数は減少しており、今後もこの傾向は続いていくと予想されます。学校は、確かな学力を身に付ける場であることは勿論ですが、児童生徒が集団生活を通して多様な考えに触れ、切磋琢磨しながら資質や能力を培っていく場でもあり、少子化の進行によって一定規模の集団が確保されなくなることは、児童生徒の教育にさまざまな影響を及ぼすものと考えられます。

このような状況を受け、永平寺町では、平成 27 年度に策定した「第 3 次永平寺町行財政改革大綱・実施計画」の取組事項として「小中学校の適正配置検討」が挙げられ、庁内での検討を進めてきました。令和元年 12 月には学識経験者や各校 P T A 代表などで組織する「永平寺町学校のあり方検討委員会」を設置し、教育長から将来の教育のあり方について諮問しました。この委員会では、児童生徒や保護者、教員、地区住民などを対象に 5,000 人規模のアンケートを実施して住民の意見を把握しながら 7 回にわたる丁寧な検討を重ね、令和 4 年 3 月に答申が提出されました。

この答申の内容を真摯に受け止め、学校再編の必要性を改めて確認し、学校再編方針の案を作成しました。今後、保護者や地域住民の皆様の御理解と御協力を得ながら、方針の内容を固めて参ります。

アンケート回答結果：別添資料参照

2 学校教育の状況

永平寺町における教育に関する取組の特色の 1 つは、複式学級の解消です。県の学級編成基準では、令和 4 年度現在、永平寺町内の 2 つの小学校で 5 つの複式学級が生じることとなりますが、町費で講師を雇用することで 4 つの複式学級化を解消し、1 つの複式学級にも教科指導の支援員を配置しています。

また、低学年や気がかりな児童生徒に寄り添い、学校生活を支援する学校教育支援員についても、約 30 人を雇用するなど、県内でも非常に手厚い支援をおこなっています。

学力の面でも、全国学力・学習状況調査の教科に関する調査では、小・中学校ともに全国・県よりも正答率が高い結果となっており、また、福井県学力調査では、「学校生活は楽しいですか」の問いに対し、「まあまあ」も含め「楽しい」という回答が約 9 割となっており、概ね楽しい学校生活を送れています。

このように、永平寺町では、行政が独自の施策を継続的に行うことで学校を支援し、各校もそれに応える取組を継続的に行うことで、子どもたちが楽しく学校生活を過ごしなが学力も高水準を保つという、質の高い教育が進められてきました。将来にわたって、このような教育を維持し、発展させていくことが望まれます。

3 学校再編の必要性

(1) 児童生徒数の今後の推計（R 元年当時の推計、各年 4 月 1 日）

	H31 推計	(R4 実数)	R5 推計	R10 推計	R15 推計
松岡小学校	369	378	360	401	382
対 H31 比			0.98	1.09	1.04

	H31 推計	(R4 実数)	R5 推計	R10 推計	R15 推計
吉野小学校	94	58	63	53	54
対 H31 比			0.67	0.56	0.57
御陵小学校	112	100	102	89	86
対 H31 比			0.91	0.79	0.77
志比小学校	146	111	103	75	58
対 H31 比			0.71	0.51	0.40
志比南小学校	87	74	74	36	30
対 H31 比			0.85	0.41	0.34
志比北小学校	33	29	30	17	12
対 H31 比			0.91	0.52	0.36
上志比小学校	122	112	108	87	75
対 H31 比			0.89	0.71	0.61
小学校児童数	963	862	840	758	697
対 H31 比			0.87	0.79	0.72
松岡中学校	304	290	299	264	277
対 H31 比			0.98	0.87	0.91
永平寺中学校	155	130	148	93	59
対 H31 比			0.95	0.60	0.38
上志比中学校	68	55	64	48	41
対 H31 比			0.94	0.71	0.60
中学校生徒数	527	475	511	405	377
対 H31 比			0.97	0.77	0.72

松岡小学校のみ、若干増加する推計結果ですが、それ以外の学校は減少傾向となっています。平成 31 年度と令和 15 年度を比べると、町全体で小・中学校ともに約 3 割の減で、特に永平寺地区での減少が著しく、約 6 割の減少が見込まれています。推計詳細：別添資料参照

(2) 学校再編の必要性について

義務教育段階の学校は、児童生徒の能力を伸ばしつつ、社会的自立の基礎、国家・社会の形成者としての基本的資質を養うことを目的としています（教育基本法）。単に教科等の知識や技能を習得させるだけではなく、集団の中で仲間と学び合うことを通して、子どもたちの思考力、表現力、判断力、問題解決能力等を育み、社会性や規範意識を身に付けさせることは、教育上極めて重要なことです。

そのような教育を十分に行うためには、一定規模の集団が確保されていることや、経験年数、専門性、男女比等について、バランスのとれた教職員集団が配置されていることが求められます。教職員の配置数は学級数によって判断されることから、一定の学校規模を確保することは必要です。

また、児童生徒の教育に直接の影響は少ないですが、PTA活動等の保護者負担が大きくなることも考えられます。

以上のように、学校教育の目的を実現し、子どもたちにより良い教育環境を提供するため、あまりにも小規模な学校については、学校の再編が必要と考えます。

メリット（良いところ）	デメリット（課題があるところ）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1人ひとりの学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、きめ細かな個別指導を行いやすい。 ・ 意見や感想を発表できる機会が多くなり、様々な活動において、1人ひとりがリーダーを務める機会も増える。 ・ 余裕を持って施設を使用できる。 ・ 異なる年齢の学習活動を組みやすく、校外学習も含めた様々な体験の機会を取り入れやすい。 ・ 地域の協力が得やすく、郷土の教育資源を活かした教育活動が展開しやすい。 ・ 児童生徒の家庭の状況、地域の教育環境等が把握しやすく、保護者や地域と連携した効果的な指導ができる。 <p style="text-align: center;">等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多種多様な価値観に触れにくくなり、社会性の育成に制約が生じる。 ・ 合唱、スポーツ、ディスカッション等は、人数が少なすぎると成立しない。 ・ クラブ活動や部活動の種類が限定されがちで、選択の幅を広げることができない。 ・ 子ども同士の間関係が固定されがちになり、トラブルがあった場合にクラス替え等の逃げ場がない。 ・ 教員同士が切磋琢磨する環境をつくりにくく、教科の専門家を配置することも困難となり、新採用教員でも1人で1教科を担当するなど、指導技術等の互恵的な学び合いがやりにくい。 ・ 学校が直面する様々な課題に対して、組織的対応をとることが難しくなる。 <p style="text-align: center;">等</p>

なお、現在では、すべての児童生徒にタブレット端末が配布されており、これを活用して他校との遠隔交流授業などを行うことによって、デメリットのいくらかは解消されます。しかし、義務教育の段階の子どもたちは、仲間との雑談やいろいろな遊びを体験することで多くのことを学び、成長していきます。テクノロジーはあくまでもツールであって、仲間と共に行動することによって学ぶということは、いつの時代においても非常に大切であると考えられます。

(3) 学校再編にあたり配慮すべき事項

小・中学校は、地域コミュニティの1つの拠点であり、地域とともに歩んできた歴史があります。特に小学校は地域との結びつきが強く、旧松岡町、旧永平寺町、旧上志比村のそれぞれの地域内に1つも学校がなくなってしまうことは、地域の人々にとって辛いことと考えます。したがって、当面の方針としては、旧町村の3地区内に少なくとも1つは小学校を残すこととします。

II 基本的な考え方

1 再編の基準

(1) 望ましい規模

学校教育法施行規則では、学校規模の標準は小・中学校ともに「12学級以上18学級以下」が標準とされていますが、この規定は「特別の事情があるときは、この限りでない」という弾力的なものとなっており、本町でも標準規模にこだわらない方針とします。

答申によると、望ましい学級数については、小学校では少なくとも1学年1学級以上とし、複式学級を発生させないことが必要であり、クラス替えや教員の配置を考慮すると、1学年2～3学級（全校で12学級以上）であることが望ましいとされています。また、1学級の規模については、最低10人は必要で、できれば20人前後が望ましいとされています。

中学校については、少なくとも1学年2学級以上（全校で6学級以上）が望ましく、免許外指導をなくしたり、全ての授業で教科担任による学習指導を行うためには、1学年3～4学級（全校で9学級以上）を確保することが理想的とされています。1学級の規模については、最低20人前後は必要とされています。

また、答申には、「とりわけ小学校においては、地区との結びつきが強いことを考慮して、子どもたちの数が減少しても存続の可能性を探る必要があります。」という記述があります。福井県の複式学級基準は、2つの学年の児童で編成する学級を16人と定めておりますが、永平寺町では、これまでも小規模校の良さを活かすため、1学年の人数が4人以上ならば町費で講師を雇用して複式学級化を解消したり、授業や学校生活を工夫することによって質の高い教育を維持してきました。このため、小学校については、今後もこの考え方を維持することとします。ただし、1学年の児童数が3人以下となった場合は、学習効果や人間関係構築の面で不安があり、子どもたちにとって良い環境とは言えないため、改善が必要です。

中学校においては、発達段階に応じて、集団の中で多様な考え方に触れ、自立に向けて切磋琢磨し合う環境が求められます。1学年1学級では、クラス替えができないことや部活動の選択肢が少ないことなどに不安があるため、答申の「少なくとも1学年2学級以上」という考え方を踏まえた対応が必要です。

以上のことから、この再編方針においては、再編の対象とする規模の目安を、小学校では1学年3人以下、中学校では1学年1学級とします。

(2) 通学方法・距離から見た適正配置

「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」（平成27年文部科学省）によると、公立小・中学校の徒歩や自転車による通学距離について、小学校でおおむね4km以内、中学校ではおおむね6km以内が妥当とされています。また、通学時間については、おおむね1時間以内を目安とした上で、各市町村において判断することが適当であるとされています。

直近小学校間の距離を見ると、松岡～吉野が2.2km、松岡～御陵が2.6km、志比～志比南が3.7km、志比～志比北が3.1km、上志比～志比北が5.1kmとなっています。中学校間では、松岡～永平寺が3.9km、永平寺～上志比が7.1km、松岡～上志比では11.0kmになります。

通学時間は交通手段によりますが、学校間距離が最長の御陵小～上志比小約13kmを自動車で移動する場合の所要時間は20分程度であることから、スクールバスを運行すれば近隣学校への1時間以内の登下校は十分可能と考えます。

2 基本方針

学校再編方針を定めるにあたっては、次の5項目を基本方針とします。

- ① 学校の再編は、児童生徒にとって望ましい教育環境を実現するためのものであること。
- ② 再編対象とする規模の目安は、小学校では「1学年3人以下」中学校では「1学年1学級」の学年が、複数とならないこと。
- ③ 当面は、旧町村の3地区内に少なくとも1つは小学校を残すこと。
- ④ 通学距離や通学時間に配慮した再編であること。
- ⑤ 再編後の校舎は、既存の施設を活用すること。

Ⅲ 小・中学校の再編方針

1 小学校の児童数推計と再編方針

(1) 松岡地区

- ・松岡小学校は、令和4年度現在、すべての学年が2学級であり、今後の推計でも児童数が減少することはありません。
- ・吉野小学校は、現在、2つの複式学級を解消しています。今後も減少傾向は続くものの、1学年10人程度を維持できます。
- ・御陵小学校も減少傾向が続くものの、1学年10～20人の範囲内で推移していきます。

(2) 永平寺地区

- ・志比小学校は、減少傾向が著しくなっておりますが、1学年10人程度を維持できます。
- ・志比南小学校も減少傾向が著しく、近い将来、1学年4人を下回る学年が予想されますが、その他の学年では4人以上を維持できます。
- ・志比北小学校は、令和4年度の新入生は1人で、令和6年度の新入生も1人と予想されます。令和11年度には、全学年が3人以下となります。

(3) 上志比地区

- ・上志比小学校は、減少傾向が続くものの、1学年10～20人の範囲内で推移していきます。

志比北小学校は、3人以下の学年が常態化するため、直近の志比小学校への統合が必要です。

2 中学校の生徒数推計と再編方針

- ・松岡中学校は、微減傾向が続きますが、今後もすべての学年で3学級が確保できます。
- ・永平寺中学校は、現在は、1学年2学級となっておりますが、減少傾向が著しく、令和11年度にはすべての学年が単学級となります。
- ・上志比中学校は、現在もすべての学年が単学級となっており、今後も減少傾向が続きます。

上志比中学校は、1学年あたり1学級の状態が続き、生徒数も減少していきます。1学年あたり2学級を確保するため、直近の永平寺中学校への統合が必要です。

児童生徒数推計およびアンケート回答（志比北小学校）

【今後の児童数推計】

※推計方法：H27 から H31 の 5 年間の出生率および年齢による増減率が今後も継続するという条件で児童生徒数を算出しています。したがって、情勢の変化によっては、推計値と実数が大きく異なる場合があります。また、学区を越えた通学、特別支援学校や義務教育学校等への通学により、実数との差が生じることもあります。

志比北小学校

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
1年	6	6	4	1	5	1	3	2	2	2	2	2	2	2	2
2年	3	7	7	4	1	6	1	3	2	2	2	2	2	2	2
3年	7	3	7	7	4	1	6	1	3	2	2	2	2	2	2
4年	6	8	4	8	8	4	1	7	1	3	2	2	2	2	2
5年	8	6	8	4	8	8	4	1	7	1	3	2	2	2	2
6年	3	8	6	8	4	8	8	4	1	7	1	3	2	2	2
計	33	38	36	32	30	28	23	18	16	17	12	13	12	12	12

計 34 36 34 29 (左記の R1～R4 は実数)

小学校合計

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
1年	139	144	143	108	133	129	124	123	121	118	118	116	115	113	112
2年	161	141	146	144	109	135	130	125	124	122	119	119	117	116	114
3年	168	161	142	147	144	110	135	131	125	124	122	119	119	117	116
4年	158	169	162	143	148	143	111	136	132	126	124	122	119	119	117
5年	176	158	170	162	143	149	143	111	136	132	126	124	122	119	119
6年	161	176	158	170	163	143	149	143	111	136	133	127	124	122	119
計	963	949	921	874	840	809	792	769	749	758	742	727	716	706	697

計 957 940 905 862 (左記の R1～R4 は実数)

【小学校の統合に関するアンケート結果】

問：子どもたちのよりよい成長、発達のためには、廃校や休校による統合などもやむを得ないと思いますか

志比北小学校区における回答

	少人数であっても 存続させてほしい	適正人数確保の ためには、統合 も仕方ない	分からない	その他	不明 無回答
地域住民	25.0%	71.9%	0.0%	3.1%	0.0%
小学校保護者	41.7%	37.5%	4.1%	4.2%	12.5%
中学校保護者 (永平寺地区全体)	17.0%	66.7%	4.4%	1.5%	10.4%
園保護者	9.1%	54.5%	9.1%	18.2%	9.1%
小学校教員	28.6%	57.1%	14.3%	0.0%	0.0%

参考：町全体の回答

	少人数であっても 存続させてほしい	適正人数確保の ためには、統合 も仕方ない	分からない	その他	不明 無回答
地域住民	23.1%	61.6%	9.9%	3.6%	1.8%
小学校保護者	23.2%	61.3%	11.3%	1.7%	2.5%
中学校保護者	17.4%	58.4%	9.4%	1.5%	13.3%
園保護者	19.1%	65.2%	12.8%	2.3%	0.5%
小学校教員	15.5%	64.3%	15.5%	3.6%	1.2%

問：あなたが通っていた小学校の1学級あたりの児童数についてどう思いますか

志比北小学校区における回答

	もっと多い方がよ かった	ちょうどよかった	もっと少ない方がよ かった	その他
高校生	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%

参考：町全体の回答

	もっと多い方がよ かった	ちょうどよかった	もっと少ない方がよ かった	その他
高校生	11.4%	84.3%	4.3%	0.0%

児童生徒数推計およびアンケート回答（上志比中学校）

【今後の生徒数推計】

※推計方法：H27 から H31 の 5 年間の出生率および年齢による増減率が今後も継続するという条件で児童生徒数を算出しています。したがって、情勢の変化によっては、推計値と実数が大きく異なる場合があります。また、学区を越えた通学、特別支援学校や義務教育学校等への通学により、実数との差が生じることもあります。

上志比中学校

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
1年	28	14	21	25	17	25	18	19	19	10	16	17	13	14	14
2年	20	29	14	21	26	17	26	18	19	19	10	16	17	13	14
3年	20	20	29	14	21	26	17	26	18	19	19	10	16	17	13
計	68	63	64	60	64	68	61	63	56	48	45	43	46	44	41

計 60 57 57 55 (左記の R1～R4 は実数)

中学校計

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
1年	167	163	180	159	171	162	143	150	144	111	137	133	127	125	123
2年	181	168	163	180	160	172	163	143	150	144	112	138	134	128	126
3年	179	181	168	163	180	160	172	163	143	150	144	112	138	134	128
計	527	512	511	502	511	494	478	456	437	405	393	383	399	387	377

計 504 497 488 475 (左記の R1～R4 は実数)

【中学校の統合に関するアンケート結果】

問：子どもたちのよりよい成長、発達のためには、廃校や休校による統合などもやむを得ないと思いませんか

上志比地区における回答

	少人数であっても 存続させてほしい	適正人数確保の ためには、統合 も仕方ない	分からない	その他	不明 無回答
地域住民	33.6%	52.1%	8.4%	5.0%	0.8%
小学校保護者	25.3%	56.8%	5.3%	0.0%	12.6%
中学校保護者	24.1%	66.7%	7.4%	0.0%	1.9%
園保護者	15.6%	66.7%	8.9%	0.0%	8.9%
中学校教員	0.0%	81.8%	9.1%	0.0%	9.1%

参考：町全体の回答

	少人数であっても 存続させてほしい	適正人数確保の ためには、統合 も仕方ない	分からない	その他	不明 無回答
地域住民	25.5%	60.9%	9.9%	1.6%	2.0%
小学校保護者	20.8%	53.0%	11.3%	0.7%	14.2%
中学校保護者	23.4%	60.8%	11.3%	1.2%	3.3%
園保護者	18.4%	65.5%	11.6%	1.5%	3.0%
中学校教員	22.0%	66.0%	4.0%	6.0%	2.0%

問：あなたが通っていた中学校の学級あたりの生徒数についてどう思いますか

上志比地区における回答

	もっと多い方がよ かった	ちょうどよかった	もっと少ない方がよ かった	その他
高校生	22.9%	74.3%	2.9%	0.0%

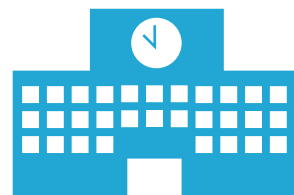
参考：町全体の回答

	もっと多い方がよ かった	ちょうどよかった	もっと少ない方がよ かった	その他
高校生	7.5%	86.6%	5.1%	0.8%

永平寺町学校再編方針(案) 概要版

標準的な学校規模（学校教育法施行規則）

- 小学校：12学級以上18学級以下（1学年2～3学級）
 - 中学校：12学級以上18学級以下（1学年4～6学級）
- ※ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りでない
⇒現在、町内で標準規模に該当するのは松岡小学校のみ



過小規模校での現在の取り組み

複式学級解消講師 本来なら複式学級となる学年を2つに分けるため、町費で講師を雇用

授業の工夫

- 多様な考えを引き出すための問いかけを工夫
- 2学年での合同体育・音楽を実施
- 他校との交流学习・行事を実施 など

学校生活の工夫 異学年との交流や縦割り集団を活用した活動 など

過小規模校での課題

- 1学年の児童数が3人以下になると、学習効果や人間関係構築の面で不安がある。
- 中学校では、より大きな集団での切磋琢磨が必要。学年1学級の規模では、クラス替えができないことや部活動の選択肢が少ないことなどの不安がある。

現在の取り組みを継続することでは、これらの不安を解消することが困難



学校再編へ

学校再編の方針

1 学校の再編は、児童生徒にとって望ましい教育環境を実現するためのものであること

2 再編対象とする規模の目安は、小学校では「1学年3人以下」中学校では「1学年1学級」の学年が、複数とならないこと

3 当面は、旧町村の3地区内に少なくとも1つは小学校を残すこと

4 通学距離や通学時間に配慮した再編であること

5 再編後の校舎は、既存の施設を活用すること